~いわて大漁ナビ データメモ~ for Upside

共通事項

・データには漁獲量と漁獲年と学名と任意のIDが含まれる必要がある。学名はレジリエンスの付与に用いるため、レジリエンス情報を有す学名であることが望ましい。

・Upsideの手法では、生物情報(成熟体長・至適温度・最大体長・成長率)が事前に用意されていた。従って、異なるデータセット（魚種）で分析する場合は、生物情報の入ったデータフレームを作成する必要がある。

->現在作成中だが、日本で水揚げされる主要魚種のデータがあれば適宜作成する必要がない。

->学名においても、同様である。一度、変換用データセットを作成してしまえばOK

分析までのto do

・手持ちの漁獲量データをUpsideに適するように整形する。(地方名から標準和名への変換・不要なデータの削除等)

データ構築上のメモ

・佳奈恵さんのデータも参考にした。

・fishbase上には基本的に魚の情報しかないため、イカやカニや貝は一律レジリエンスMediumになる。佳奈恵さんのデータでも同様であった。

・基本的な進め方は

1. 標準和名から学名をネット上で探す。

1’) 標準和名から学名を佳奈恵さんのデータから探す。

2) 探した学名をfishbaseで検索をかけ、生息域等の情報から正確な学名かを判断する。

・学名がNAだと、run\_gum\_assessment\_Kei()でエラーが返ってくるので、基本的には全てに学名を付与する。(例え存在しない学名の魚種でも、レジリエンスにNAが付与され、レジリエンスがNAのものは自動的にMediumが付与されるので、コードを実行する目的として何かしらの学名を付与することが推奨される)

・アキサケ−アキサケのオスメスは全てサケの学名を与えている

・その他のカジキ類−三陸で獲れるカジキ類の漁獲割合の詳細が不明なため、カジキ亜目の学名を与えている。

・フグ類−三陸で獲れるフグ類の漁獲割合の詳細が不明なため、フグ亜科の学名を付与。ネット上の情報で岩手県においてコモンフグやヒガンフグも漁獲されると見つけた。コモンフグ・ヒガンフグはレジリエンスがhigh。トラフグのレジリエンスはMediumであるので注意。漁獲割合に応じて付与する学名を適宜変える必要あり。

・アナゴ類−三陸で獲れるアナゴ類の漁獲割合の詳細が不明なため、アナゴ属の学名を付与。

・カニ類−カニ類と広くまとめられているので、十脚目(エビ目)の学名を付与。

・その他のアイナメ類−アイナメ属の学名を付与。

・コチ類−三陸で獲れるアジ類の漁獲割合の詳細が不明なため、コチ科の学名を付与。マゴチのレジリエンスはMedium。メゴチのレジリエンスはHighであることに注意。漁獲割合に応じて付与する学名を適宜変える必要がある。

・ハタ類−三陸で獲れるアジ類の漁獲割合の詳細が不明なため、ハタ亜科の学名を付与する。Fishbaseのハタ類のレジリエンスはMediumとLowに大別(Mediumの方が少し多い)される。

・その他のカレイ類−三陸で獲れるカレイの漁獲割合が不明のため、カレイ科の学名を付与。Fishbase上のカレイの大半はレジリエンスMediumである。

・その他のソイ類−三陸で獲れるソイ類の漁獲割合の詳細が不明なため、メバル属の学名を付与。

・その他のアジ類−三陸で獲れるアジ類の漁獲割合の詳細が不明なため、アジ亜科の学名を付与。Fishbaseに含まれるアジのレジリエンスは大半がMedium(Medium12種：Low2種)である。

・その他のイカナゴ類−三陸で獲れるイカナゴ類の漁獲割合の詳細が不明なため、イカナゴ属の学名を付与。イカナゴがレジリエンスHighなので、その他のイカナゴ類にもHighのレジリエンスを付与。

・その他のサワラ類−三陸で獲れるサワラ類の漁獲割合の詳細が不明なため、サワラ属の学名を付与。

・タナゴ類−水揚げされるタナゴ類としてウミタナゴの学名を付与。

・ツノナシオキアミ（イサダ）−Fishbaseに甲殻類データが無いが、一応ツノナシオキアミ の学名を付与。

・サバ類−水揚げされるのは主にマサバとゴマサバだと想定されるため、サバ属の学名を付与。どちらもレジリエンスはMediumである。

・その他のダツ類−サンマを除くダツ目の魚種を指すと想定されるため、ダツ目の学名を付与。（トビウオが含まれる可能性があるのでダツ目まで広げている）。

・メヌケ類−分類としてメヌケ属は存在せず、メバル属の一部である。従って、メヌケを代表してアラスカメヌケ（アカウオ）の学名を付与。

・タコ類−Fishbaseに頭足類データが無いが、一応マダコ属の学名を付与。

・その他のタラ類−日本で漁獲されるタラはマダラ・スケソウダラ・コマイの3種のため、マダラ・スケソウダラは別に存在するため、ここでは残るコマイを指すと想定し、コマイの学名を付与する。

・エイ類−広い括り方なため、食用エイを包括的に含むエイ上目の学名を付与。食用エイ（ガンギエイ目・トビエイ目）のレジリエンスは大半がLowなのでLowを付与。

・メバル類−メバル類は主にシロメバル・クロメバル・アカメバルの3種を指すと想定し、シロメバル・アカメバルのレジリエンスMediumを付与する。クロメバルのレジリエンスがVery lowのため、漁獲割合によっては適宜学名を変更する必要がある。

・その他のサケ・マス類−三陸で獲れるサケ・マス類の漁獲割合の詳細が不明なため、サケ属の学名を付与。

・その他のイワシ類−イワシ類は主にマイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシの3種を指すと想定し、マイワシ・カタクチイワシは別に存在しているため、ウルメイワシのレジリエンス(Medium)を付与する。学名は3種のイワシを含むようにニシン亜科の学名を付与。

・ナマコ類−食用ナマコはマナマコが大半だと想定し、マナマコの学名を付与。

・ホヤ類−水揚げされるホヤはアカボヤ・マボヤと想定し、マボヤ属の学名を付与。

・ウニ類−三陸で獲れるウニ類の漁獲割合の詳細が不明なため、食用ウニの大半が属するホンウニ目の学名を付与。

・その他のタイ類−タイ類全体のレジリエンスはLowとMediumに大別される。しかし、クロダイ・チダイ・キチヌ・キダイ・ヘダイといった別に存在するマダイを除く主要なタイ類のレジリエンスはMediumのため、Mediumのレジリエンスを付与。

・サメ類−三陸で獲れるサメ類の漁獲割合の詳細が不明のため、食用サメの大半が属するネズミザメ上目の学名を付与。Fishbaseのサメ類全体のレジリエンスはLowとVery lowに大別される。ヨシキリザメ・アオザメ・ドチザメのレジリエンスはLow、ネズミザメ(モウカザメ)・アブラツノザメのレジリエンスはVery lowである。デフォルトではより悪条件を想定しVery lowのレジリエンスを付与。

・貝類−三陸で獲れる貝類の漁獲割合の詳細が不明なため、単純に貝の英語名を付与。

・エビ類−三陸で獲れるエビ類の漁獲割合の詳細が不明なため、単純にエビの英語名を付与。

・その他のカツオ類−その他のカツオ類に含まれると想定されるのは、マナガツオやソウダガツオやハガツオやスマだが、この3種はいずれも分類が大きく異なる(マナガツオ：イボダイ亜科、ソウダガツオ：サバ亜目マグロ族、ハガツオ：サバ亜目ハガツオ族、スマ：サバ亜目スマ属)。レジリエンスに関して、マナガツオはHighのレジリエンスだが、そのほかのカツオ類はいずれもMediumのレジリエンスである。従って、デフォルトではMediumのレジリエンスを付与。

・オオメマス（シロザケ）−アキサケと同じ学名を付与。

・マンボウ類−三陸で獲れるマンボウ類の漁獲割合の詳細が不明なため、マンボウ科の学名を付与。マンボウ以外のレジリエンスが不明だったので、マンボウのレジリエンスMediumを付与。

・カワハギ類−三陸で獲れるカワハギ類の漁獲割合の詳細が不明なため、カワハギ属の学名を付与。カワハギ類全体のレジリエンスはHighとMediumに大別されるが、日本で主とされるカワハギ・ウマズラハギ・ウスバハギのレジリエンスが全てMediumだったことから、デフォルトではMediumのレジリエンスを付与。

・その他のマグロ−三陸で獲れるマグロ類の漁獲割合の詳細が不明なため、マグロ属の学名を付与。ミナミマグロとコシナガがレジリエンスLowだが、そのほかの日本で漁獲されるマグロ類は全てレジリエンスMediumであるため、デフォルトとしてレジリエンスMediumを付与。

・その他のブリ類−三陸で獲れるブリ類の漁獲割合の詳細が不明なため、ブリ属の学名を付与。ブリ類として主に含まれるのは、ヒラマサ・カンパチであると想定される。ヒラマサのレジリエンスがLow、カンパチのレジリエンスがMediumである。従って、より悪条件であるLowをデフォルトでは採用する。